入試問題　国語

出題傾向と合格に向けた対策

1｜入試の全体像：時間・配点・大問構成

試験時間

50分

満点

100点

大問

全6題

知識問題

大問1〜3

問題構成

大問1〜3｜言葉の知識

漢字・語彙・文法・言葉遣い
熟語・慣用表現・ことわざ

大問4〜5｜文章読解

説明文：7〜10問
小説：8〜10問

大問6｜韻文

詩・短歌・俳句：5〜7問

2｜大問1〜3：漢字・語彙・言葉の知識

問われる内容

・漢字の読み書き（学年配当漢字・同音異字など）
・言葉の意味・語彙・文法・言葉遣い
・熟語・慣用表現・ことわざ

得点につながる学習

・ドリルだけでなく、練習ノートに書く
・例文も書き、声に出して読む
・覚えた言葉を会話や作文で使ってみる

毎日の学習サイクル

① 覚える
読み・書き・意味

→

② 使う
例文・日常会話

→

③ 解き直す
間違いを翌日復習

知識問題は、直前期にも伸ばしやすい分野。苦手意識を持たず、少しずつ継続しましょう。

3｜大問4：説明文は「書いてあること」を読む

本文の中にあるヒントから、筆者の主張と論理の道筋を探します。

① 目的地を探す

筆者が最も伝えたい主張は何か

② ルートを追う

理由・具体例・対比・結論のつながり

③ ヒントを言葉に

本文の根拠から、何が言えるか説明する

設問でよく問われること

理由を問う

「なぜそう言えるのか」

内容を説明する

「どういうことか」を言い換える

解き方：まず本文のヒントを見つけ、答えの方向を考えてから選択肢・記述に進む。

4｜大問5：小説は「書かれていないこと」を読む

セリフ・行動・背景から、人物の心情や人間性を読み取ります。

① セリフ

なぜ、そのように言ったのか

② 行動

なぜ、その行動をしたのか

③ 背景・情景

その場面が心情にどう関わるか

心情を「言語化」する練習

出来事・言動・情景（本文の根拠）

↓

「なぜそうしたのか」「どんな気持ちなのか」を自分の言葉で説明する

自分の想像だけで決めず、本文の描写を根拠に心情や行動の理由を考えましょう。

5｜大問6：韻文は短い言葉から心情を読む

詩

擬人法・反復法・倒置法
対句法・体言止めなど

俳句

五・七・五のリズム
季語・切れ字・句切れ

短歌

五・七・五・七・七のリズム
表現と場面から作者の思いを読む

読み方の手順

表現技法に注目
言葉の選び方・繰り返し

→

情景を描く
何を見ているのか

→

心情を考える
何を感じたのか

表現技法の名称を覚えるだけでなく、その技法が生む効果を考えることが大切です。

6｜設問から考える：国語で求められる力

国語の問題で求められるのは、本文から読み取り、自分の言葉で説明する力です。

理由を問う

傍線部の理由は何か

内容を言い換える

傍線部はどういうことか

指示語をたどる

「これ」「そのこと」は何を指すか

小説の心情・行動理由

なぜそう言った／行動したのか

解答の基本手順

設問を読む → 根拠を探す → 言葉にする

本文の根拠に線を引き、設問の条件に合う答えになっているか最後に確認。

7｜合格に向けて、今日からできること

受験生：毎日の習慣

- ☐ 漢字・語彙を5〜10分
- ☐ 読解で本文の根拠に線を引く
- ☐ 間違えた問題を解き直す

受験生：週ごとの確認

- ☐ 説明文・小説・韻文を練習
- ☐ 記述答案を見直す
- ☐ 過去問を時間を計って解く

保護者：支えるポイント

- ☐ 結果だけでなく努力も認める
- ☐ 間違いの理由を一緒に確認
- ☐ 学習と休息のリズムを整える

志望校対策

- ☐ 最新の出題形式・配点を確認
- ☐ 過去問で弱点を見つける
- ☐ 解き直しで定着させる

知識は毎日。読解は根拠。過去問は振り返り。

一度に完璧を目指さず、できることを継続して積み上げましょう。